

立命館大学環太平洋文明研究センター第13回研究会

2017年4月24日(月)18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館研究会室1

縄文時代の人口問題

矢野健一

(立命館文学部教授：考古学)



青森県三内丸山遺跡

人口の過密化や過疎化、少子化、高齢化など、人口問題は産業構造の変化に伴う人口の都市への集中、世帯構成の変化や医療の発達など、現代社会特有の原因によって生じた点に目を奪われがちです。しかし、基本的には社会の維持にとって必要な人口をいかに適切に維持していくかという問題です。縄文社会においても例外ではありません。縄文社会はいかに人口を適切に維持しようとしたか、人口問題の解決に成功したのか、失敗したのか？縄文時代の人口問題の特質と現代の人口問題との異同を論じ、人口問題の本質を探ります。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>